立命館土曜講座　立命館大学

誰もが無料で聴講可能、半世紀以上続くロングラン講座。

毎週土曜日の午後、誰でも無料で聴講できる「立命館土曜講座」は、今年で65年目になる長寿講座。来年1月は「新しい人文学 デジタル・ヒューマニティーズの最新潮流」を特集。全体をコーディネートする、文学部教授赤間亮氏にその内容を訊いた。

立命館土曜講座の1月のテーマは「デジタル・ヒューマニティーズの最新潮流」です。デジタル・ヒューマニティーズとは、ここ5年ぐらいに出てきた学問領域あるいは研究方法なのですが、ヒューマニティーズ（人文学）の分野に情報科学の技術を連携させた〝人文学の新しい潮流〟です。

日本の人文学研究はタコ壺状態といわれています。海外との連携が非常に弱い。さまざまな情報技術を用いて地理的な問題を解決し、海外の研究者と日本の研究者たちが研究資料を共有化することで、従来型の日本文化研究を革新することが目的の一つです。

一例には、世界中に散逸した浮世絵のデジタルアーカイブがあります。日本から流出してしまった浮世絵を、ボストン美術館や大英博物館などと協力してデジタル化し、研究資源として共有化しています。

1月15日の講座「Webの中から文化を見直す　ヴィジュアリゼーションの可能性」では、新しい時空間情報可視化システムを紹介します。2次元である地図に時間軸を組み合わせた立体のキューブの中に、ある出来事を置き可視化します。キューブの中にマッピングすることでこれまで見えなかった物事が一つにつながって見えてくる。すでに歴史学や心理学などで面白い成果を生んでいます。

1月22日は「デジタルアーカイブから見えてくるもの　埋もれていた〈海外で活躍した日本人〉の再発見」という講座です。近代、明治初期に海外に渡った日本人の芸術家が、海外では評価が高いにもかかわらず、いつの間にか埋もれてしまい、それが私たちが構築した海外の研究ネットワークによって、浮かび上がってきました。そうした人たちにクローズアップして、彼らの文化的活動を紹介します。

1月29日の最終回は「モノを見直す　友禅下絵の世界」です。京都には地場産業である友禅の文様を描いた下絵が大量に残っていますが、友禅の会社や工房が倒産してそうした資料が散逸し、海外にも流出しています。また、大判であったり、裏表があったりと扱いが大変で、いままで研究しづらかったのですが、デジタルアーカイブ化することで、大量の資料が扱えるようになり、さらに公開することで、さまざまな視点で研究ができるようになりました。その成果を話します。

今回の土曜講座では、若手研究者に彼ら自身が最もリアルと感じている最新の研究成果、まさに動いている〝いま〟の研究を話してもらいます。彼らは異業種とも柔軟にコラボレーションができる。ジャンルを超えたアプローチをすることで、新しい価値観を発見できる。デジタル・ヒューマニティーズはまさにそれを目指している学問なのです。

DATA

場所　立命館大学　末川記念会館講義室
期間　毎週土曜日（通年）
時間　14時～16時　**費用**　無料
定員　約200名　**申し込み**　受講資格はとくになし。事前申込不要
問い合わせ先　☎075・465・8236　E-mail:doyo@st.ritsumei.ac.jp
www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm

その他の講義

2010年12月　特集「グローバル化と人の移動―ツーリストそして労働者―」（12／4「東南アジアのツーリズムの風景」藤巻正己　「日本人バックパッカーの身ぶり」大野哲也　12／18「トランスナショナル化するマレーシアの外国人労働者」藤巻正己　「ペナンにおけるネパール人労働者の生存戦略」山本勇次）

2011年1月　特集「新しい人文学 デジタル・ヒューマニティーズの最新潮流」（1／15「Webの中から文化を見直す　ヴィジュアリゼーションの可能性」稲葉光行・斎藤進也　1／22「デジタルアーカイブから見えてくるもの　埋もれていた〈海外で活躍した日本人〉の再発見」彬子女王殿下・前崎信也　1／29「モノを見直す　友禅下絵の世界」岡本隆明・山本真紗子）

Knowledge as power

専門家を迎え、時代に即したテーマを聴く。

1946年、当時の学長だった故・末川博名誉総長が「大衆とともに学ぶことが重要」と提唱し始まった「立命館土曜講座」。以来、半世紀以上続くロングラン講座だ。各月のテーマは時代に即したもので、内容は多岐にわたる。今年6月には、普天間基地問題を取り上げ、3人の講師により毎週視点を変えた講義を行った。世界遺産をテーマにした月もある。

多彩な講師陣も魅力的だ。立命館大学の教授のみならず、その学問の専門家を外部から招くことも多い。普天間基地問題であれば、沖縄国際大学の教授を招き、世界遺産がテーマであれば、前ユネスコ事務局長松浦晃一郎氏を迎えている。まさに最新の「生きた学問」を身につけることができる。

右：1月の講座をコーディネートする文学部教授の赤間亮氏。世界中の浮世絵をデジタルアーカイブ化している。左：10月16日に開催された講座の様子。テーマは「漢語と和語」。